

適格認定の国際的展開－ABEST21 の実践

ABEST21 理事長 伊藤文雄

ABEST21(THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW, a 21st century organization)は、2005年7月1日、国内外の16大学のビジネススクールの学部長等が参集して設立されたが、その源流は今から20年前に創設された「グローバル・クラスルーム(Global Classroom)国際会議」の開催に遡る。

「グローバル・クラスルーム国際会議」は、1994年10月28日、国内外の7大学のビジネススクールの学部長が参加して先端的情報通信技術を駆使して位置、場所、空間を超越した仮想教室の実現を目指したものである。それは、“オンライン・リアルタイム・テレビ会議システム”による国境を越えた仮想教室の創出であった。その後、グローバル・クラスルーム国際会議は参加大学の増加により、ビジネススクールの教育のグローバル化を推進していくために、2002年6月28日、「グローバル・ナレッジ・ネットワーク(Global Knowledge Network)機構」に改めた。グローバル・ナレッジ・ネットワーク機構は、さらにビジネススクールの教育のグローバル化のより一層の推進のために、ビジネススクールの教育の質保証の問題に取り組むことになり、2005年7月1日、ABEST21に改組した。そして、ABEST21はビジネススクールの教育の質保証を行うために、分野別認証評価機関の認証申請を行い、2007年10月12日、文部科学相より認証された。ABEST21の認証評価の国際的展開は、ABEST21のこれまでの活動経緯から既に評価活動の国際的展開の素地が形成されていたことによる。



世界にビジネススクールの教育の質を保証する認証評価機関がアメリカとヨーロッパにそれぞれ存在しているが、アジアの文化の多様性に依拠したアジアの認証評価機関はこれまでなかった。ABEST21はこの多様性を評価した国際的展開をしているアジア唯一のビジネススクールの認証評価機関である。ABEST21の国際的展開のスタートは国内の一橋大学、京都大学、神戸大学、筑波大学、青山学院大学、関西大学、南山大学そして早稲田大学の各大学の経営専門職大学院（ビジネススクール）の分野別評価であり、17ヶ国50校のビジネススクールの学部長と評価経験を共有する機会となった。これによりABEST21の国際展開力は高まり、アジアの Management and Science University (Malaysia), University of Brawijaya (Indonesia)そして SP Jain School of Global Management (Singapore)の認証評価を実現する結果となった。その結果、現在ではアジア7ヶ国11大学のビジネススクールの認証評価の審査を展開している。



ABEST21は、規格化された評価基準をグローバルスタンダードという名でアジアのすべてのビジネススクールの教育に一律に適用し、均質な規格化されたビジネススクールの創出を目指してはいない。教育には時代の要請に応えた人材を育成していくという目的がある。アジア諸国の経済の発展段階は様々であり、それ故、各国のビジネススクールの教育制度も異なり、また育成すべき人材も異なっている。例えば、アジアで食事をする時にすべての人々が西洋のホークを使わなければならないのではなく、一つの食卓において各々が自国の文化に従ってホークを、箸を、5本指を、または3本指を使って食事することを相互に認め合うことが必要ではないだろうか。